

「キッズジョブ2017」に協力



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、8月19日（土）と20日（日）、富士市と富士市産業交流展示場「ふじさんめっせ」が共催した「キッズジョブ2017」に協力して広報活動を実施した。

これは、「未来の自分を見つけに行こう」をスローガンに、さまざまな仕事について体験を通して楽しく学ぶことを目的とした参加型イベントである。

開会式には、自衛隊静岡地方協力本部長も出席し、2日間で約9000人の来場者が訪れて大盛況となった。

会場内は、「お仕事体験エリア」「ものづくり体験エリア」「商店街エリア」「働く車体験エリア」「キッズフリマ」などに分かれており、自衛隊は「働く車体験エリア」において、陸上自衛隊第34普通科連隊（板妻駐屯地）が高機動車の展示及び子供用迷彩服試着コーナーを開設するとともに、静岡地本が自衛隊版の特製缶バッジの作成・配布を行った。

来場者の中には、普段目にするのではない自衛隊の車両に目を輝かせ、迷彩服を試着して高機動車に乗り込むと、敬礼を真似して楽しそうに記念撮影をする子供たちや、缶バッジを身に付けて嬉しそうに家族に見せる子供たちが多く見受けられた。

静岡地本は、今後も地域のイベントへ積極的に参加し、将来のなりたい職業の一つとして自衛隊に興味を持ってもらえるよう、各協力団体及び地域の方々と連携していく。

「海上自衛隊横須賀基地見学ツアー」に参加



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、8月24日（木）、海上自衛隊横須賀地方総監部（神奈川県横須賀市）が実施した「横須賀基地見学ツアー」に参加者を引率した。

この見学ツアーは、海上自衛隊への入隊を希望する学生などを対象に、実際の基地を見学し理解を深めてもらうことを目的として行われ、静岡県内から11人が参加した。

午前は、横須賀基地の広報担当者による海上自衛隊の概要説明が行なわれ、質疑応答では「今までで一番大変だった訓練の思い出は何か」などの質問が寄せられ、一つ一つ丁寧に答えていた。

昼食は、隊員が日頃から食事をとっている「隊員食堂」において、味と栄養バランスを考慮して作られた食事を体験喫食した。

午後は、曳船と呼ばれる小型の船で横須賀港内の体験航海が行われ、海上自衛隊最大の護衛艦「いずも」や米海軍の原子力空母「ロナルド・レーガン」など、本物の艦艇の迫力や大きさに圧倒され、参加者は皆一様に驚いていた。また、その後の艦艇見学では、護衛艦「むらさめ」に乗艦し、乗員の丁寧な説明に皆真剣に耳を傾けていた。

終了後、参加者からは「海上自衛隊の仕事の幅広さや奥深さに驚いた」「受験の意思が更に固まった」という感想が聞かれた。

静岡地本は、今後も学生や若者に対し基地見学など現場を見学できる機会を通じて、陸・海・空各自衛隊の任務や魅力を知ってもらえるよう努めていく。